

## 手賀沼周辺のミナミメダカの保全活動（継続）

鈴木結人<sup>1</sup>・鈴木崇之<sup>2</sup>

1) 小学校5年生（手賀沼水生生物研究会） 2) 1)の父親（手賀沼水生生物研究会）

### はじめに

ミナミメダカ（*Oryzias latipes*：写真上）は、環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧Ⅱ類（VU）、千葉県レッドリスト 2019 では重要保護動物（B）にそれぞれ選定されており、絶滅のおそれが高まっている。

手賀沼（てがぬま、写真中）は、千葉県北部の柏市、我孫子市、白井市、印西市等にまたがる利根川水系の湖沼で、都心から一番近い天然の湖沼とも言われる。風光明媚で自然環境豊かな同エリアの中心的な環境資源であり、多様な水生生物が生息する。

『手賀沼に暮らす生き物』（我孫子市, 2023）によれば、「ミナミメダカは手賀沼につながる小川や水田に生息していたが、昭和 20 年代後半から次第に減少」したとされる。その理由として、水田の減少などの農業環境の変化が言われている一方で、外来種による影響も指摘されている。

特に、特定外来生物に指定されているカダヤシ（*Gambusia affinis*）は、先行研究から、環境に適応しやすい性質があること、ミナミメダカと生息域を共有すること、ミナミメダカの卵や稚魚を捕食すること、ミナミメダカの繁殖行動に必要な鰭を食いちぎること、さらには卵胎生（メスの体内で卵が孵化して稚魚を産む）で繁殖力が高く増えやすいこと等から、ミナミメダカの激減の原因の 1 つであると考えられている（宮崎・谷口, 2009）。



### 生息地調査

手賀沼周辺におけるミナミメダカとカダヤシの生息状況を確認するために、2022 年 3 月 27 日から 2025 年 6 月 14 日の 3 年 2 ヶ月間にわたって手網を用いたフィールド調査を行った。計 57 地点のうち、ミナミメダカ生息 6 地点（カダヤシ共存 2 地点を含む）、カダヤシ生息 38 地点、どちらも生息なし 13 地点という結果となり、手賀沼ならびにその周辺でもカダヤシが広がっていることが示唆された。

### 駆除活動

ミナミメダカの生息が確認された 6 地点①～⑥のうち、生息地⑤はミナミメダカの数が多いものの、カダヤシとの共存・競合状態となっていた。そこで、ミナミメダカがカダヤシと競合して危機に晒されていると思われる生息地⑤の調査・駆除活動に注力することとした（2024 年 6 月 30 日から 2025 年 12 月 13 日の 1 年 6 ヶ月間）。

方法は、一定時間内に網で採れたミナミメダカとカダヤシの匹数を測定・記録し、特にそれらの比率に注目して経時的なデータとして蓄積することとした。なお、採取したミナミメダカはその場でリリースし、カダヤシはその場で駆除した（写真右）。

本駆除活動の結果、ミナミメダカは合計 9,662 匹（総捕獲個体の 76%。ただし、繰り返し採取された個体を含む）が採取された一方で、カダヤシは合計 1,753 匹（同 14%）が採取され、後者を駆除することができた。なお、同期間に採取・駆除した他の特定外来生物はアメリカザリガニ 41 匹、ブルーギル 23 匹のみであり、生息地⑤のミナミメダカを保全するにはカダヤシの駆除が最重要かつ効果的であることが示唆された。



また、生息地⑤の経時的変化を月毎に確認したところ、ミナミメダカとカダヤシの数の比率は、駆除活動を開始した 2024 年 6 月のカダヤシ 89%（ミナミメダカ 11%）から 2025 年 8 月にはカダヤシ 4%（ミナミメダカ 96%）へとカダヤシが大きく減少した。しかし、2025 年 9 月以降は急速にカダヤシ割合が高まってしまった。この理由は、ナガエツルノゲイトウが障壁となってつくっていた止水域に滞留・増殖していたカダヤシが、行政によるナガエツルノゲイトウ駆除によって障壁がなくなり、ミナミメダカ優勢の用水路に一気に流れ込んだためだと推測している。

### **ナガエツルノゲイトウとの関係を考察**

上述したように、生息地⑤では通水阻害要因植物の一つであるナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）などが増えており（写真右）、止水域ができることでカダヤシにとって生息しやすい環境となっていると考えられた。



生息地⑤に広がる 5 地点の 2023 年から 2025 年の通水阻害要因植物の繁茂状況、ならびに 2025 年夏のミナミメダカ・カダヤシの採取数を確認したところ、ナガエツルノゲイトウならびにこれに伴う止水域が増えることでカダヤシが増加することが示唆された。

### **今後**

生息地⑤での駆除活動は引き続き継続し、カダヤシ密度の低減をはかることでミナミメダカの保全を目指したい。本年 2 月 14 日には、手賀沼水生生物研究会の会員による集中的なカダヤシ駆除を行う予定である。また、ナガエツルノゲイトウとカダヤシの関係性も引き続き調査していきたい。

以上